



## 公益財団法人 国際科学技術財団

### 活動指針

この法人は、人類の平和と繁栄が世界中の人々にとって共通の願望であることに鑑み、これに貢献する科学技術の進歩のための研究開発活動を奨励すると共に、科学技術に関する知識及び思想の総合的な普及啓発を図ることを目的とします。

### 団体の特徴

- 財団が授与する日本国際賞の実施に関し、関係行政機関は必要な協力を行うものとする閣議了解を得ています。
- 公益財団法人の認可を受けています。
- 毎年4月には、日本国際賞授賞式を国立劇場にて挙げており、天皇皇后両陛下のご臨席をはじめ、三権の長、政財界並びに各国大使の方々にご参列いただいています。
- 科学技術に関する知識・研究成果の総合的な普及啓発を図る活動を展開しています。

### 主な活動内容

- 日本国際賞による、科学技術に関する国際的で顕著な業績の顕彰
- 若手科学者の研究活動を支援・奨励する研究助成
- 一般の方々を対象に科学技術の啓発を行う「やさしい科学技術セミナー」の実施
- ノーベル賞の授賞式ほかの行事に学生2名を選抜して派遣、国際交流の機会を提供

## ご寄附いただいた場合

### ◆寄附金は寄附金控除の対象になります。

- ・11月頃、寄附金の領収書を郵送します。  
寄附金控除を受けるためには、確定申告の際に寄附金の領収書を添付してください。

### ◆活動内容を報告します。

- ・年に1回、各年度の事業報告書を郵送します。

### 団体連絡先

## 公益財団法人 国際科学技術財団

〒107-6035 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル イーストウィング35階  
TEL:03-5545-0551 FAX:03-5545-0554  
URL:<http://www.japanprize.jp/>

### ご支援でできること

寄附金は、科学技術の進歩のための研究開発活動を奨励すると共に、科学技術に関する知識・研究成果の総合的な普及啓発を図るために実施される事業の活動資金として活用します。

### 国際科学技術財団の活動

#### 日本国際賞

「Japan Prize」(日本国際賞)とは、「国際社会への恩返しの意味で日本にノーベル賞並みの世界的な賞を作ってはどうか」との政府の構想に、松下幸之助氏が寄付をもって応え、1985年に実現した国際賞です。

この賞は、全世界の科学技術者を対象とし、独創的で飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与し、もって人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認められる人に与えられるものです。

毎年、科学技術の動向を勘案して決められた2つの分野で受賞者が選定されます。受賞者には、賞状、賞牌及び賞金5,000万円(1分野に対し)が贈られます。



2019年(第35回)のJapan Prizeは、「物質・材料・生産」分野で「らせん高分子の精密合成と医薬品等の実用的光学分割材料の開発への先駆的貢献」の業績で名古屋大学特別教授の岡本佳男博士に、また「生物生産、生態・環境」分野では「食糧安全保障強化と気候変動緩和のための持続的土壌管理手法の確立」の業績でオハイオ州立大学特別栄誉教授のラタン・ラル博士に贈られました。

#### 研究助成

Japan Prizeの2つの授賞対象分野に「グリーン&サステナブルエネルギー」分野を加えた3分野で研究する35歳以下の若手科学者を対象に、独創的で発展性のある研究に対し、2006年以降、これまでに270名(1件100万円)に助成を行っています。将来を嘱望される若手科学者の研究活動を支援・奨励することにより、科学技術の更なる進歩とともに、それによって人類の平和と繁栄がもたらされることを期待しています。



#### やさしい科学技術セミナー

私たちの生活に関わりのある、様々な分野の科学技術について、研究助成に選ばれた研究者を講師に迎え、やさしく解説していただきます。講義だけでなく実験や研究室の見学などを交えることで、より理解しやすく科学への興味を掻き立てる内容にしています。次世代を担う中学生や高校生を中心対象に全国各地で開催しており、1989年以降、これまでに323回以上開催しています。



#### ストックホルム国際青年科学セミナー

ノーベル財団の協力で、スウェーデン青年科学者連盟が毎年ノーベル賞週間に合わせてストックホルムで開催する「ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS; Stockholm International Youth Science Seminar)」に毎年2名の学生(大学生・大学院生)を派遣しています。SIYSSには世界各国から派遣された若手科学者が集い、ノーベル賞授賞式など諸行事に参加したり、自身の研究発表を行います。SIYSSへの派遣は、若手科学者に比類ない国際交流の機会を提供するだけでなく、科学に対するモラルの向上や熱意の高揚にも役立っています。1987年以降、これまでに62名の学生を派遣しています。

